

別記様式第2号

平成29年 10月10日

<b>行政視察報告書</b>	(会派の場合) 会派の名称			
	代表者氏名			⑩
	(会派以外の場合) 議員氏名		伊東 圭介	⑩
参加議員	横山 すみ子	議員	笠原 俊一	議員
	金崎 ひさ	議員	待寺 真司	議員
		議員		議員
		議員		議員
視 察 先	(1) 石川県金沢市			
	(2)			
	(3)			
視察目的 (項目)	(1) Share (シェア) 金沢の運営について			
	(2) 金沢フラットバス試乗体験と観光のまちづくり			
	(3)			
<p><b>【調査内容・概要】</b></p> <p>(1) Share (シェア) 金沢の運営について</p> <p>★社会福祉法人「佛子園」が運営する「シェア金沢」を視察しました。石川県金沢市にあり、ごちゃまぜの街づくりを実践しています。</p> <p>法人所有の広大な土地に障がい者、大学生、高齢者などの住居が建ち並び、それらをつなぐ道路は金沢市に寄付をして市道となっています。その道路の両脇には住居の他、コインランドリーの商店がテナントで経営されており、普通の街角を形成しております。</p> <p>この地に住む高齢者や障がい者はこれらの商店で働いており、終の棲家として移り住んできた方々が仕事を得て、元気になったとの感想をいただきました。</p> <p>また、大学生用の住居も8戸あり、格安の家賃で入居できますが、ただしボランティアが義務付けられており、この中に住む介護の必要な方々の手助けをすることとなっています。そして、すぐ近くに市立小学校があり、石段でつながっており、子ども達がいつも行き交っていました。世代や障害の有無を越えて、ごちゃまぜの普通の日常がありました。法人職員は「黒子」に徹しており、これらの人々に介護が必要となった時、この地で生きていくことができる受け皿となっています。理想的なまちづくりを学ばせていただきました。</p> <p style="text-align: right;">記 金崎 ひさ</p>				



○シェア金沢の事務所棟入り口

●事務所棟から見た街並み



☆一つの施設で異なる2つの機能のシェア金沢は何だろうという先入観が変わりました。施設長の説明では、太平洋戦争で住まいを亡くした方々がお寺で共同生活を始めたことから、こうした施設展開が始まり、この寺を解放した仕組みが佛子園です。

佛子園の施設は、県内に数か所あるそうですが、シェア金沢は金沢市の郊外、病院施設移転から敷地を買い受け建設されました。

いろいろな人が生活するしくみの施設というより町。障害がある人や高齢者が自立できる仕組みが数多くありました。

近隣住民も施設利用し学童保育や演奏会も開催するなど、この施設に社会生活が集約されているごちゃ混ぜ施設という説明であり、実感した。

昼間余暇を楽しむ高齢者に、食事やお茶の販売をする障がい者、夜間はお酒が飲める居酒屋さんに変身し、施設外住民の利用も可能です。

また、一般の方々も利用できる天然温泉もあり、事務所の施設周辺にはこうした方々が暮らす戸建て高齢者サービス付き住宅や児童入所施設、クリーニング店、日用品と

生活雑費店。全天候型のグラウンド。ドックランとアルパカ牧場。学生向け住宅などなどがあり、施設全体で一つの町が形成されています。

作家の村上龍氏がこの施設に寄せた言葉の末尾に、「佛子園の哲学は人間としての原点であり普遍的真実である」とかかかれていることが印象に残ります。

記 笠原 俊一



○シェア金沢の清水施設長から説明を受ける

●戸建て住宅



「ごちゃまぜ、多世代共生のまちづくり」

テレビのキャンブリア宮殿という番組で「シェア金沢」を知り、ぜひ訪問したいと思っていた施設です。実際に訪れて、感激でした。

高齢者も障害のある人も、子どもも、学生も一緒に触れあいながら暮らせるまちづくり。今の制度では、そのような複合的な施設は、補助金制度などでなかなか認められないのが実態です。

シェア金沢の中心となる建物には、レストランや温泉まであり、住民がゆったりくつろいでいる姿が印象的でした。子どもたちものびのび遊んでいました。

この施設には、総理大臣や地方創生担当大臣まで視察に来られるとのこと。制度改正にも影響が出てくるのでは、と感じました。

社会福祉法人佛子園では「シェア金沢」だけでなく、白山市、輪島市などで多様な活動を展開中とのこと。より、研究を深めたいものです。

記 横山 すみ子



●地場野菜の販売スペース。奥手は食堂になっており、夜は居酒屋に！

## (2) 金沢フラットバス試乗体験と観光のまちづくり

◆ふらっとバスは、金沢市内の住民の日常の足として、1回 100 円（定期パス有り）4 ルート運航しています。路線バスと異なり主に商店や住宅内の市道を走るバスで大変便利でした。1泊 2 日の視察中全部の 4 ルートに乗ることができ、金沢市の生活者の目線で町を見ることができた思いです。

記 笠原 俊一



●武家屋敷跡の細く曲がりくねった道もスイスイ👉

◇「ふらっとバス」発展していました。

ふらっとバスが発足した当時に乗車し、商店街や住宅地の狭い道に入り、観光客だけでなく地元の住民の皆さんが利用されている状況を見ていました。1路線から4路線に拡充されていて、今回は4路線に乗ってみました。

乗客が多い路線、少ない路線、街中を走る路線、住宅街を細かく走る路線など、様々でした。細やかな配慮に感心するところが多く、葉山にもこんなバスが走っていたら、住民だけでなく、観光客にも十分に楽しんでいただけたらと思います。

記 横山 すみ子



○観光の中心「香林坊」バス停。乗り継ぎポイント

◆歴史と文化のまち金沢を走る「ふらっとバス」は、狭く細い道が数多くあり路線バスが通れない地域や公共交通の利用が不便な地域で新たな移動手段の導入が求められ、平成11年にスタートした小型ノンステップバス事業です。

ルートは、4ルートあり①此花ルート②菊川ルート③材木ルート④長町ルートになっています。①～③は、北陸鉄道に④は、西日本 JR バスに運行を委託しています。今回の二日間の視察中、すべてのルートに乗車することができました。また、各路線の乗り継ぎポイントが7か所ありとても便利でした。興味深い取り組みとしては、沿線の11の小学校の児童が31か所のバス停や周辺施設の見どころなどを紹介する車内音声案内をしていました。

バス停の間隔は、約200mごとに設置されており、運行間隔は、15分間隔で走っており、覚えやすさもありとても便利でした。運賃も大人100円、子ども50円となっており気軽に利用しやすい設定になっていました。

本町も高齢化率が高く、交通不便地もあり、地形的にも交通弱者には外出困難な状況である。今後益々、このようなミニバス事業の要請が高まることは、確実だと思われれます。

本町としても今一度、本格的に検討する時期が来ていると考えます。

記 伊東 圭介

◆江戸時代の加賀藩政期に築かれたという、細く狭く複雑に入り組んだ小路や坂道が今も残っている金沢市の中心部を走る「金沢ふらっとバス」の4路線を体験乗車しました。4路線全てが周回ルートとなっており、それぞれのルートへの乗り継ぎポイントが、ルートマップに明示されており、初めて利用する観光客にも、大変分かりやすい案内となっていました。

まずは金沢駅東口を起点とする「此花ルート」に乗車。駅前大通りを走行すると程なく狭い路地に入ります。両側には食事処や様々なお店が並ぶ商店街通りを抜けると、金沢の台所「近江町市場」に着きます。そこで乗り換えて「長町ルート」に乗車。金沢市の2大河川のひとつ「犀川」を渡り、にし茶屋街や長町武家屋敷跡前の曲がりくねった細い路地を抜けて再び近江町市場前へ戻りました。

翌日には、近江町市場前から「材木ルート」に乗り、乗り継ぎポイントである「香林坊」にて、「菊川ルート」に。狭い坂道を駆け上ると「金沢大学付属病院」に到着。5分前後の休憩&トイレタイムとなります。長町ルートでも病院の敷地内に停留所が設けられて、乗客もドライバーもトイレが利用できる点が素晴らしい！

「金沢21世紀美術館」前で再び材木ルートに乗り換え。狭隘道路が続く住宅街をくねくねと進むと「浅野川」沿いの細い小路を通り「梅の橋（木製の古い橋梁）」バス停で下車し、観光名所のひとつ「ひがし茶屋街」の街並みを視察しました。

4ルートともに、日常生活での買い物や通院利用、また金沢の観光地を巡り、金沢の町並みを楽しめる観光用として、とても便利な交通手段と感じました。昔ながらの裏路地を楽しみながら、金沢市民の生活空間を体感できることが、観光客にとっては最大の魅力です。葉山の暮らしを体感していただき、定住促進に向けてもとても大切な事業だと、改めて強く認識する視察となりました。

ちなみに名称の由来は、「ふらっと」乗れる気軽さと、段差のない「Flat」なバスの構造にちなんでつけられたとのこと。乗車賃は1周乗っても大人100円、子ども（小学生）50円です。地元の方々との会話も弾む、とても楽しい体験をすることができました。

記 待寺 真司



● 聖霊病院のバス停 📍 金沢大学附属病院バス停 📍 どちらも敷地内&トイレ休憩



#### ◇金沢の観光地としての魅力

金沢市は、約 46 万人の県庁所在地であり、北陸地方の経済や文化の中心的な都市です。私は、数年ぶりに金沢を訪れましたが、大きく変わったイメージがありました。その大きな要因は、やはり 2015 年 3 月 14 日に金沢まで開業した北陸新幹線の影響が大きいと感じました。それまでは、関東（東京）から金沢を目指すときは、羽田空港から小松空港まで飛行機を使い訪れるケースかマイカーで訪れることが多かったのではないかと思います。北陸新幹線「はくたか」であれば、東京駅から 2 時間 30 分で金沢駅まで行けるようになったわけですから圧倒的に早く、気軽に訪れることができるようになったと思います。

金沢の魅力としては、「食」・「街並み」・「史跡・名所等」があげられると思います。具体的には、「近江町市場」・「ひがし茶屋街」・「長町武家屋敷跡」・「金沢城・兼六園」・「金沢 21 世紀美術館」などになります。また、金沢周辺には、能登や加賀などの魅力的な温泉宿泊地もあり周遊観光地としても大変魅力的であると思います。

今回の視察で感じたことは、やはり観光客数が増えていること、そして女性同士のグループや外国人の観光客が多く目についたことでした。今や金沢は、アクセスの便利さもあり男女性別や年代を問わず楽しめる観光地であり、リピーターも増え、今後も観光客の増加が見込める魅力的な観光地であると感じました。

記 伊東 圭介



📍 観光スポットの一つ「ひがし茶屋街」



